

卓球部インターハイ壮行式挨拶

平成 27 年 7 月 24 日(金)

先日の日曜日、大野高校の卓球部の高総体・東北大会の報告会・近畿インターハイ激励会が行われました。12名の男女選手と家族、洋野町長はじめたくさんの来賓が集まる中、盛大に行われました。懇親会が始まり驚いたのは、飲み物、料理の給仕や準備を最後まで、すべて生徒達が行ったということです。本来なら祝福され立場である生徒達なのに、「お世話になった方々に恩返しをする場」として、自発的に料理を運び、飲み物を注ぎながら、各テーブルをまわって歓談しているのです。私は、なるほど18年連続インターハイ出場の秘訣はこんなところにもあるんだなと思いました。

そのときの挨拶で、私は卓球部について2つのことを話しました。

一つは、部活動と勉強の両方を頑張るだけでなく、いつも地域への感謝を口にし、地域に貢献したいという気持ちを持っていること。

もう一つは、高い目標を持ち、互いに妥協せず切磋琢磨する姿勢を見せていることです。これが卓球部の強さであり、卓球という範囲に留まらず、様々なところに波及される力であると思います。

さて、ここで、皆さんに2つのことを紹介します。

一つは、通学路前のフェンスに掲げられた、カラフルな卓球部のインターハイ出場を祝う横断幕です。これは事務長さんが骨を折って下さり、あの場所に破格の金額で設置できました。字は、元大野村教育長の小西先生に書いていただきました。85歳というご高齢ですが、いつも大野高校のために書いていただいています。卓球部のゼッケンも書いてくださっていると思います。そして、この横断幕の設置は、学校技術員の奥肇宏さんが、たった一人で行いました。奥さんは、里山整備のための準備作業も陰で率先して行ったださっています。あらためてお礼申し上げたいと思います。

もう一つの紹介は、昨日発行されたPTA会報です。この中で、塚本さんのお父さんが記事を書かれています。男子部への感謝、先生や地域への感謝が述べられています。是非読んで下さい。

このような、多くの人たちの応援をバックに、卓球部の皆さんは8月10日から大津市で開催されるインターハイに臨みます。私は、高総体の試合も見ましたが、決して楽勝ではなく、ここの一本という場面での紙一重の強さが、大野高校は抜きんできていると思いました。もちろん、全国では、そういうレベルの学校が集まるわけですが、大野高校卓球部は、どこよりも、感謝の気持ちが多い分、多くの人たちの応援をパワーに変える強さを持っていると確信しています。だからこそ、生徒の皆さん、大野高校が紙一重の一本を勝ち取れるように、ここで応援のパワーを下さい。

そして、卓球部の皆さん。これまでの練習を信じて、最大の力を発揮し、目標を達成して下さい。

校長 下町 壽男